

令和5年度 中央区立中央幼稚園 自己評価報告書

園名： 中央区立中央幼稚園 所在地：中央区湊1-4-1

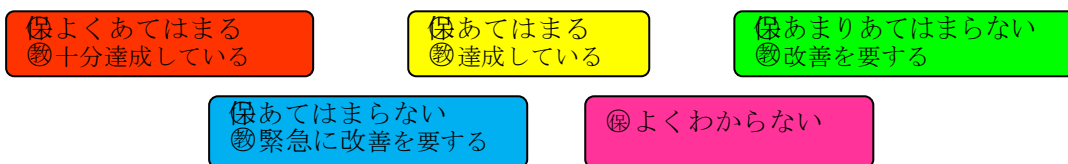
園長名： 山本 有子

園児数： 57名 学級数： 3学級 教員： 5名（園長1名含）

★本園では、Ⅰ主体的に学び行動する基礎の育成、Ⅱ豊かな人間性の基礎の育成、Ⅲ健康な体力・安全な生活の素地の育成の3点を重点目標に教育活動を行っています。これらについて、教員の自己評価を行うとともに、令和5年12月に保護者の皆様に園評価アンケートを実施しました。保護者園評価アンケートの回収率は79%でした。

<重点目標の達成状況及び取組状況>

保護者の重点目標3項目の「よくあてはまる」「あてはまる」の評価の合計を平均すると、96.4%となりました。以下、重点目標ごとの結果です。



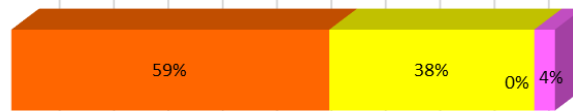
重点目標Ⅰ 主体的に学び行動する基礎の育成

保護者

① 一人ひとりが安心して、自分のやりたいことにかかわり、遊びを楽しんでいる。



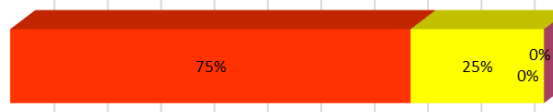
② 学級や他学年の友達に興味をもち、かかわりを喜び遊んでいるか。



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

教員

① 一人ひとりが安心して、自分のやりたいことにかかわり、遊びを楽しんでいる。



② 学級や他学年の友達に興味をもち、かかわりを喜んでいるか。



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

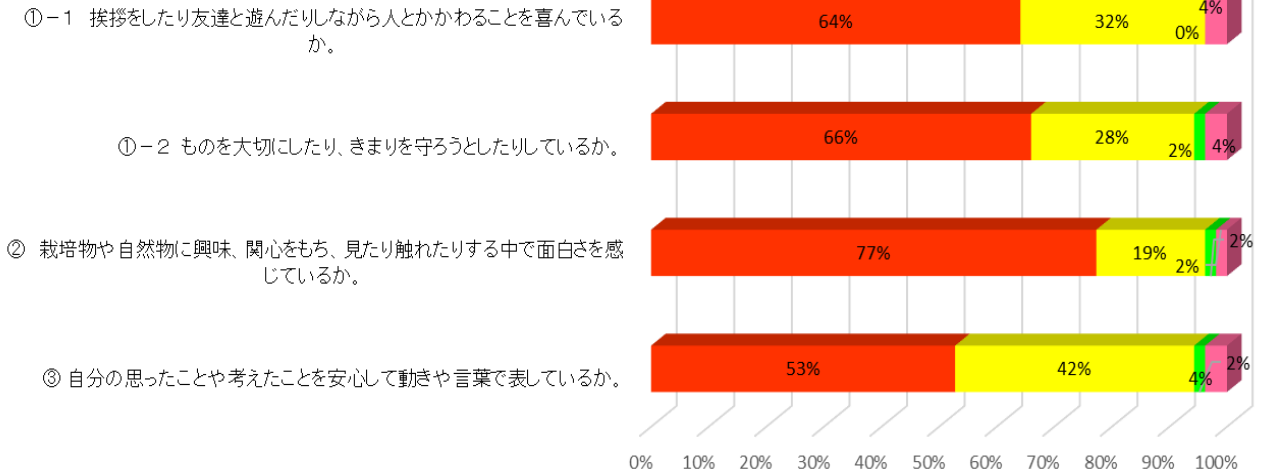
○重点目標Ⅰの保護者の「よくあてはまる」「あてはまる」の合計の平均は、96.5%と高い評価をいただきました。

① の項目について評価をいただけた背景に、担任、補佐員が学年を超えて、幼児の生活や遊びを見守り、声を掛けていくという体制がとれていることにあると思います。必ず保育後に職員室で園児のエピソード、かかわり方を全職員で共有しています。指導の方向性を園として共通にすることで、誰がかかわっても、一人一人が安心して遊びを楽しめるようにしています。

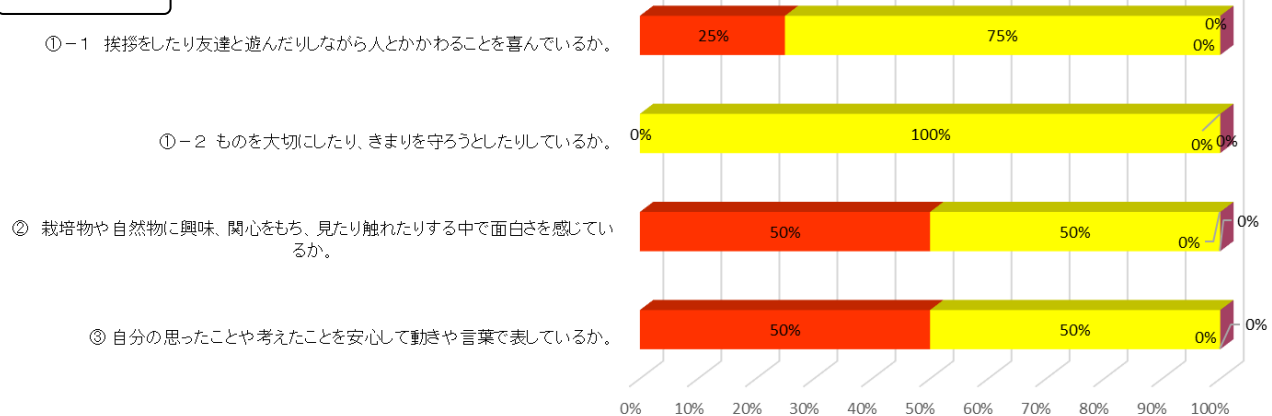
②の項目については、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が、昨年度より7ポイント上昇しました。友達や異年齢の幼児とかかわりがもてる「わくわくタイム」や共有して遊ぶ場など、時間を意図的に設定してきました。幼稚園公開やルクミーの発信を通して、ご理解いただけたのではないかと思います。一方、「わからない」という回答もありましたので、幼児同士のかかわりから育つものを分かりやすく伝えていくことを課題とし、より一層の連携と援助を重ねてまいります。

重点目標Ⅱ 豊かな人間性の基礎の育成

保護者



教員



○重点目標Ⅱの保護者の「よくあてはまる」「あてはまる」の合計の平均は95.2%と、高い評価をいただきました。

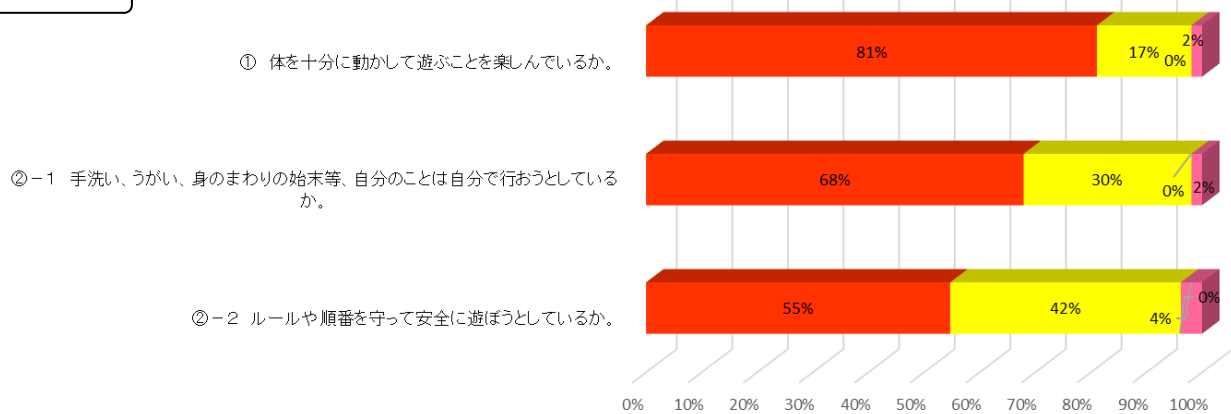
①の『他を思いやる心を中心とした道徳性の芽生えの醸成』に関する項目については、少数ですが「あまりあてはまらない」「よくわからない」の回答がありました。集団生活において、園児は自分とは違う考えに気付いたり、葛藤したりすることも多く経験します。教員は、そのような経験を丁寧に見取り、相手と気持ちよく過ごすために大切なこと(挨拶、約束を守る、相手の気持ちを考えるなど)を伝えていきます。教員の評価でも特に議題にあがる項目なので、教員自身の言動がモデルになることを自覚しながら、指導を行ってまいります。

②の『飼育栽培活動などの体験活動』に関する項目では、「よくあてはまる」が昨年度に比べ9ポイント上昇しました。今年度は、アゲハの幼虫の観察、ジャガイモの栽培・収穫・調理、自然物(ドングリや枝など)を取り入れた遊びなど、体験を通して、不思議さや面白さを味わうことができました。地域や小学校の教員の協力、またICTの活用を取り入れたことで、効果的な援助ができたことが評価につながっていると思います。

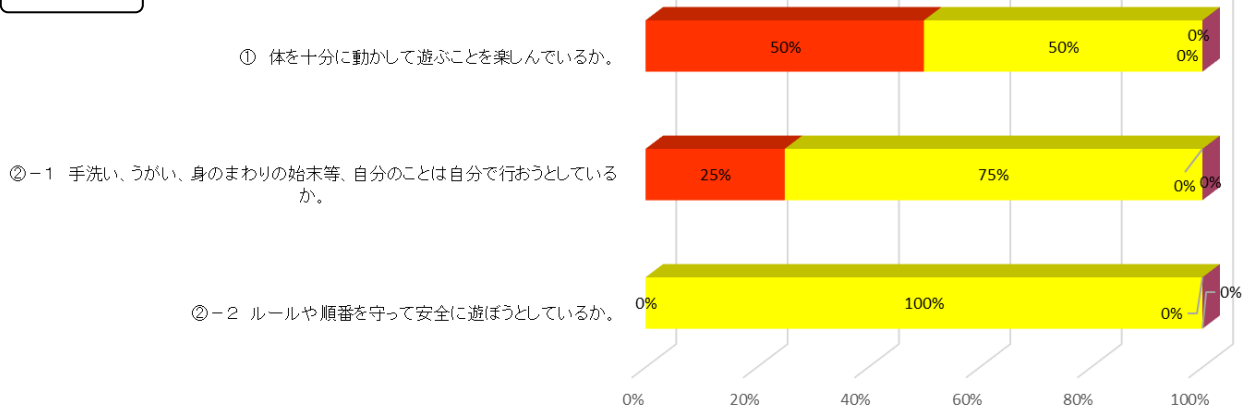
③の『自分の思ったことや考えたことを安心して動きや言葉で表しているか』の項目では、少数ですが、お子さんが気持ちを言葉で伝えられていないと課題に感じている方がいました。幼稚園は、保護者の方と、お子さんの具体的な姿や短期的、長期的な育ちを共有していくことを大事にしています。また、園内研究の視点で目指す幼児像として、自分の思いを言葉で相手に伝えながら遊びを楽しんでほしいという願いをもって援助を行っています。引き続き、個に応じたこまやかなかわりと支援を行ってまいります。

重点目標Ⅲ 健康な体力・安全な生活の素地の育成

保護者



教員



○重点目標Ⅲの「よくあてはまる」「あてはまる」の合計の平均は97.6%と高い評価をいただきました。

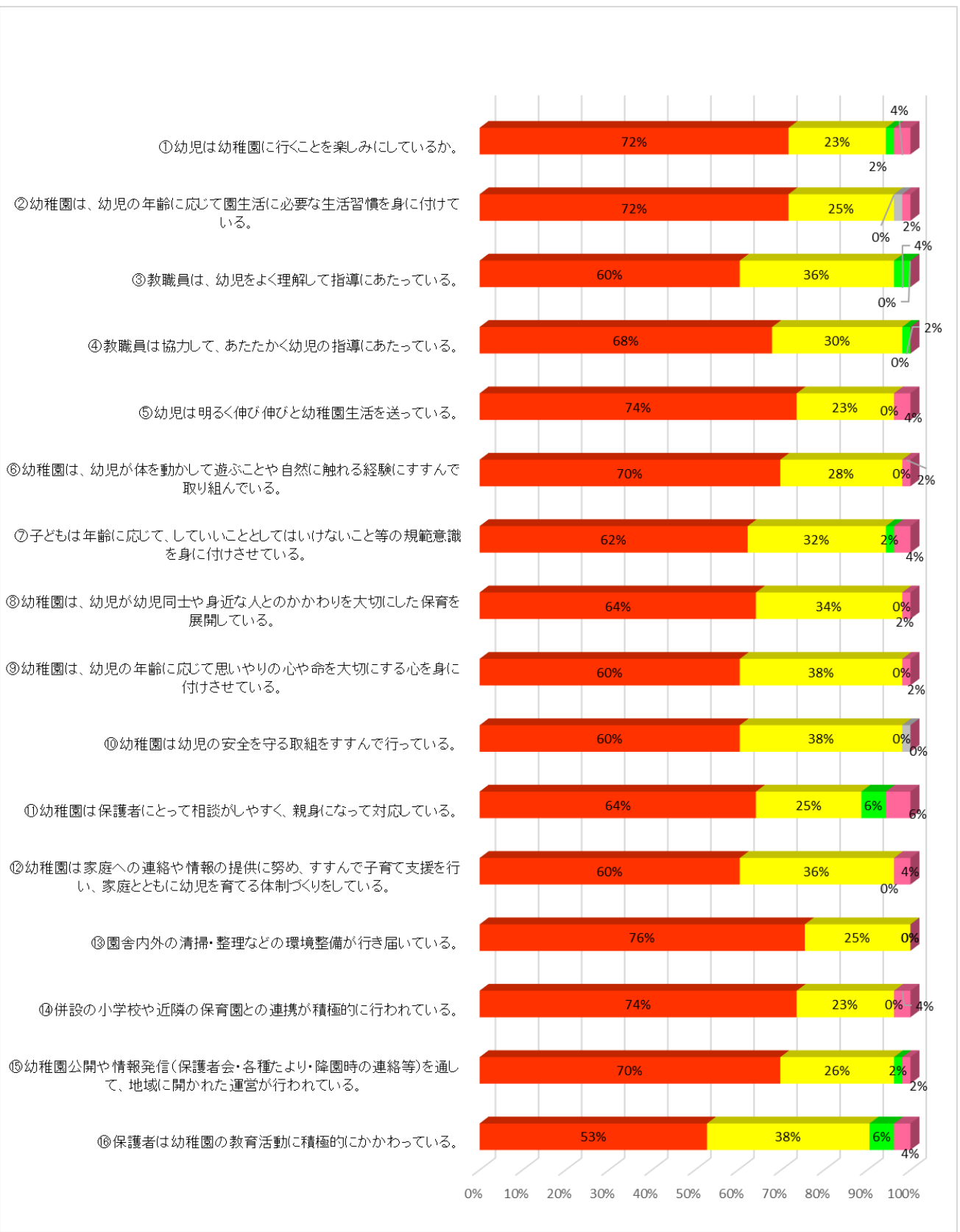
- ①の『体を十分に動かして遊ぶこと』の項目では、昨年度より「よくあてはまる」が5ポイント上昇しました。園庭、テラス、屋上校庭などの施設の活用、運動遊び推進園としての取組もよい影響となっていると思います。また、わくわく親子デー、年少組の親子ふれあい遊び、幼稚園公開など、保護者自身も一緒に体を動かしてもらう機会を通して、実感していただけたと思います。
- ②-1では、大体の方が「あてはまる」と評価いただきましたが、引き続き丁寧に指導していく項目と捉えています。自分の身の回りのことがしっかりと身に付いている子は、生活・遊びに落ち着いて取り組むことができます。幼児は、気分や体調に大きく左右されることもあります。家庭と園が互いに連携して取り組むことを基盤にしていきたいと思っています。
- ②-2については、教員間で具体的な安全指導(生活面・交通面)の課題があがり、検討しました。幼児の実態や家庭の生活習慣を踏まえた内容になっているか協議し、安全指導計画の見直しを図ります。また、安全面に関しては、施設面、発達に応じた遊び方について、気付いたことは迅速に共有、改善を図るようになっています。幼児自身にも、どのように行動したら安全・健康な生活、遊びが行えるのかを考えられるような指導を工夫してまいります。

<重点目標以外の評価における達成状況及び達成のための取組状況>

保護者アンケートによる評価

★全方位的な評価として、保護者16項目、教員11項目での評価を行いました。

保護者



○保護者による評価

「よくあてはまる」「あてはまる」の評価の平均は、96.3%でした。特に、以下の項目は「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が昨年度より上昇しました。

①幼児は幼稚園に行くことを楽しみにしている (+3ポイント)

・幼稚園は幼児にとって、安心できる場所、楽しいことがある、大好きな先生・友達がいるところとなるよう目指しています。しかし、これはすべて信頼関係のもとに成り立つと考えているので、今後も全力で努めてまいります。

⑨幼稚園は、幼児の年齢に応じて、思いやりの心や命を大切にされた保育を展開している (+6ポイント)

・異年齢の幼児とかかわる際に、相手の思いに寄り添った声掛けをする5歳児の姿や、栽培物や小さな生き物とのふれあいを通して、思いを寄せる姿などたくさん見られました。教員からのその様子を伝えたことや、幼児自身が家庭での会話から、評価いただけたのではないかと推察します。

⑫幼稚園は家庭への連絡や情報の提供に努め、すすんで子育て支援を行い、家庭とともに幼児を育てる体制づくりをしている (+3ポイント)

・園務支援システム(ルクミー)の積極的な活用を行い、保育の写真に幼児の経験していることを加えて発信したことで評価いただけたかと思えます。また、今年度は保護者参加の行事、お手伝いなどが、教育活動にかかわる喜びを味わえるような内容、方法となっているか見直し、実施しました。反省・評価した点を来年度に活かしてまいります。

⑭併設の小学校や近隣の保育園との連携が積極的に行われている (+7ポイント)

・周年に関する行事参加や5歳児の1・5年生との継続した交流活動の取組を通して、中央学園として一体となって教育活動を進めていることが表せたのではないかと感じています。来年度も、この中央学園の育ちのつながりを継続していけるよう、小学校教員との連携、指導の工夫に努めてまいります。

課題としては、

⑪幼稚園は保護者にとって相談がしやすく、親身になって対応しているの項目では、少数ですが「あてはまらない」の回答がありました。幼稚園はいつでも保護者の方の不安や心配に寄り添いたいと考えています。日々のやりとりを重ね、丁寧に信頼関係を築いていきたいと思えます。

自由記述欄からは、「家庭ではできない遊びや運動を思い切りさせてもらえる」「ルクミーの導入により園の様子がよくわかる」「土日の行事があると両親が参加できる」など様々な視点からご意見いただきました。また「時代や保護者のライフスタイルを踏まえて」「安全面に不安を感じる」などのご指摘もありましたので、真摯に受け止め改善を図ってまいります。今後も、家庭と幼稚園との連携を深め、より充実した教育活動を実践してまいります。

○教員による評価

教員は全方位的な評価11項目を行いました。その中で以下の点について「改善を要する」「課題とを感じる」という評価があり、検討を行いました。

『保育の状況 保育一表現』

・製作・描画活動において教員側に苦手意識があることも要因になっています。教師自身が教材研究を主体的に行い、経験の積み重ねを意識して、タイミングを逃さず取り入れてきます。

『情報提供 保護者会・個人面談』

・保護者の就労や家庭の事情など様々な理由から保護者会の参加率が低下しています。開催方法の見直しと魅力ある内容の工夫が必要と考えています。

『情報提供 通知・ホームページ』

・ホームページを未就園児や地域の方が閲覧してくださり、幼稚園教育に関心をもっていただいていることを自覚し、発信内容の質の向上を目指します。

『特別支援教育 園内委員会の運営』

・日々情報共有に努め、共有しているものの、集合形態の時間の確保が難しいことがありました。共有方法や開催方法を見直し、個に応じたきめ細やかな指導に向けて改善を図ってまいります。

<今後の改善方策>

○幼稚園教育要領に基いて、主体的に遊びに関わる幼児を育てる。

- ・幼児期にふさわしい生活・遊びの実践、環境構成
- ・園内研究会、研修の充実
- ・主体的な教材研究

○小学校・保育園と連携した就学前教育の充実を図る。

- ・教員同士の互いの教育活動の理解、互惠性のある交流の実践
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を中心とした学びの連続性を図る。
- ・近隣の保育園、幼稚園、小学校との教員同士の連携及び直接交流活動の実施

○保護者・地域との連携を深め、幼稚園・保護者・地域が一体となって教育活動を進める。

- ・幼稚園公開（年間3回の実施）
- ・幼稚園行事、親子参加活動内容の意図を発信→保護者にもねらいをもって参加できるようにする。
- ・地域の行事、取組の情報発信、参加の啓発
- ・ホームページ、園務支援システム（ルクミー）の活用、写真掲示等による発信の充実。
- ・園と保護者の日々のコミュニケーション、専門機関との連携、外部講師の活用等を通じた子育て支援の充実
- ・預かり保育、弁当給食の利用開始に伴い、家庭での生活リズムや幼児の心身の状態を丁寧に把握し、心身ともに健康な園生活を送れるよう、家庭や関係機関と密に連携を図る。